

平成24年12月7日

お知らせ

資料提供先：鳥取県政記者クラブ

鳥取市政記者クラブ

用瀬地区の景観等に配慮した千代川の整備を考えます

～第2回 用瀬地区堤防景観等検討委員会の開催～

千代川上流の用瀬地区は「流し雛」に代表される、河川と人の関わりが強い地域であるとともに、河川内には露岩が見られるなど、良好な景観が形成されている地域です。

今後、この用瀬地区において河川整備（堤防整備等）を実施する中での景観への配慮や課題等を検討する委員会を開催します。

日時 平成24年12月14日（金） 14時00分～16時00分予定

場所 国土交通省鳥取河川国道事務所 1階会議室（鳥取市田園町 4-400）



問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

【担当】 副所長 いぬやま ただし 犬山 正、工務第1課長 いわた まなぶ 岩田 学

TEL (0857) - 22 - 8435 (代表)、FAX (0857) - 29 - 1819

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/>

用瀬地区堤防景観等検討委員会概要～景観に配慮した整備を検討する委員会を設置～

～実施状況～

- 第1回委員会 H24. 8. 2 :用瀬箇所における課題の共有
- 第2回委員会 H24. 12. 14:景観検討、課題の今後の方針決定

○委員会の目的(設立趣旨):

千代川の河川整備は、平成19年5月に策定した河川整備計画に基づいて行っており、洪水による災害発生の防止に関して、戦後最大洪水である昭和54年10月洪水と同規模の洪水を安全に流下させることを目標としている。下流域については、概ね目標を達成しつつあるところであり、今後は上流域の整備を進めていきたいと考えているところである。

上流域の事業箇所の一つである、用瀬地区の雑橋付近から下流約240m区間の国道53号沿いには、周辺の既設護岸や低水路部の露岩など良好な景観に配慮した構造とする必要があることから、治水機能を満足し、かつ地域の文化・景観にマッチした堤防形状(景観)を検討するものである。また併せて、改修区間にあり桁下高不足となっている、雑橋・中橋の取り扱いについても検討を行う。

○委員構成:

鳥取環境大学 理事 道上 正規
鳥取大学大学院工学研究科教授 檜谷 治
鳥取大学地域学部地域政策学科教授 藤井 正(整備局景観アドバイザー)
鳥取市用瀬町総合支所長 中村 晃
吉田 健男(前用瀬三区長)
竹澤 敏男(前用瀬四区長)
鳥取河川国道事務所長 田中 衛

計7名で構成

(事務局:鳥取河川国道事務所 工務第1課)

課題:橋梁の取扱い

・中橋および雑橋については、桁下高さの不足や橋脚による流水障害があり洪水時に橋梁自体の安全度に影響が懸念される



第1回委員会状況(H24. 8. 2 用瀬現地にて実施)



課題:景観に配慮した堤防整備

- ・用瀬地区は、伝統行事『流し雛』の発祥地であり河川との繋がりが深い地域
- ・地元住民も河川景観への関心が高い

